

(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン事業))

【新庄市の取組み】

新庄市では、市内で自然環境保全活動を積極的に行っている地域団体に対し、継続的な活動の支援を行っています。市内福宮地区では、県指定天然記念物である蝶「チョウセンアカシジミ」の生息が再確認されたことをきっかけに、平成28年から地域住民有志による「チョウセンアカシジミを守る会」が立ち上がり、生育環境の保全に取り組んできました。また、地域内外に対して保全活動の発信も積極的に行っており、自然観察会の開催や地元中学生への森林学習会等を通じて、まだまだ謎が多い蝶の生態等について広く発信しています。本年は、それらの活動が認められ、「環境やまがた大賞奨励賞」を受賞しました。今後は、生息環境の保全だけでなく、地域に愛されるような場所にしていきたいと考えています。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【森の楽器の会の取組み】

森の楽器の会は、活動拠点である最上町の間伐材から製作された創作弦楽器を活用し、小学校等で楽器作成ワークショップや文化祭発表に向けたサポートなどを行っている団体です。今年度は、新規会員も増え新たな楽器を追加し、自分たちの演奏活動に力を入れて活動を行いました。故郷の木が奏でる音色で、地域に誇りや愛着を持てる子どもが育成されることを願い、これからも町の魅力として伝えていければと思います。



【遊び工房プロジェクトの取組み】

遊び工房プロジェクトは、新庄市エコロジーガーデンを拠点とし、木、山草花、樹皮や蔓等の森の素材を活用しワークショップを行っている団体です。自然に親しみ自然を使い、そしてDIYで得られる小さな成功体験。失敗を繰り返し自分の手で作品を完成させれば、もっと作りたくなる。そして自信が生まれる。失敗なんて怖くない！僕らのモノづくり体験と一緒に参加してみませんか？



↑ Facebook
チェック!



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

【長井市の取組み】

長井市では、「21世紀不伐の森」の整備事業に取り組んでいます。「21世紀不伐の森」とは、長井ダム建設工事で発生した残土処理場に、消えた森をもう一度取り戻そうと始まった活動で、毎年、地元住民が主体となって植樹や下刈りなどを行っています。平成24年度からみどり環境税活用事業となっていますが、活動そのものは、平成22年度から10年間続けられてきました。

例年であれば、地区住民が集まる大きなイベントですが、今年度はコロナ禍の影響を考慮して、開催期間を2日間と定め、その中で地区ごと別々に活動する方法（分散開催）がとられました。参加者の活動時間の重複を無くし、不伐の森の活動範囲を25区画にして担当箇所を明確にしているため、森づくり活動の質を下げることなく密を回避する、工夫した開催方法です。コロナ禍にもかかわらず、延べ125人の方が参加されました。

自然や森林を守り育てる心は、コロナ禍にも負けず、なお深まっています。

**(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動**

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【最上川229ネットワークの取組み】

同団体は、私たちの生活に関わる森～川～海を繋ぐ最上川の歴史や文化を中心に、自然の素晴らしさや森林の大切さを学ぶ森林環境学習に取り組んでいます。

今年度は、白鷹町山口地区の「羽黒の森」で、蚕桑小学校2年生(22名)の自然観察会及び同小学校4年生(16人)の学習会で最上川の舟運や小鵜飼船に羽黒のスギが使われた歴史を学び、羽黒のスギ材を使った小鵜飼船の模型作りや同スギ材の短冊に俳句などを読み、木の温もりを体感しました。

**【あたご山愛護会の取組み】**

同会は、白鷹町貝生地区の愛宕山で地区住民とともに森づくり活動及び地区の親子を対象に自然や木と親しむ体験活動を通して、森林の大切さを学ぶ森林環境学習に取り組んでいます。

今年度は、地区住民による倒木処理及び刈払いを行うとともに、地元の小学生とその保護者を対象に愛宕山の木の実、枝及び山野草等を使った木工クラフトを行いました。

こうした活動により、愛宕山に人が入って活用することで里山再生に繋がることを学びました。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

【庄内町の取組み】

庄内町では、森林への理解や古道への関心を深めてもらうことを目的として、毎年2回トレッキング事業を開催しています。

板敷山古道コースは、現在の国道ができる前に利用していた板敷越えの古道で、炭焼き窯等の昔の名残があり、後半は紅葉を眺めるコースとなっています。古道は、関係者が現地を何度も踏査と調査をして確認できた道で、現在も毎年踏査して後年に残す取組みをしています。

今年度の板敷山古道コースでのトレッキングは、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながらの開催となりましたが、森林の働きや古道を学習及び体験するとともに天候にも恵まれ最高の紅葉を望み、心身ともにリフレッシュすることができた1日となりました。

本事業では、トレッキング事業のほか木工教室等の体験事業も開催しています。今後もより多くの方々から、山林や木材に親しんでもらえる事業を展開していきます。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【羽黒・芸術の森の取組み】

「羽黒・芸術の森」は、洋画家今井繁三郎が生前暮らしていた8,600坪の敷地内にある雑木林を、様々なイベントや散策、自然体験できる場として整備する事業を行っています。令和2年度は、森の中の遊歩道整備や、100種類近くある様々な木に樹名札を作るワークショップを行い、活動の間には窯焼きピザでの昼食を楽しみました。例年より参加人数を絞っての開催となりましたが、今年も多くの方に参加していただきました。

来年度も引き続き、自然と芸術を体感できる、市民に愛される森づくりを進めていきます！



【西荒瀬保育園の取組み】

西荒瀬保育園では、年間を通して地域の事業所の協力のもと保護者の方と一緒に森林環境教育『みどりの保育園』事業を行っています。

園舎脇の国有林を活用した「しんちゃん森」で森や自然とのふれあい活動を行っています。また、親子で植樹、鳥海山散策で山の恵みを体験、最上川で渡り鳥観察会などを楽しんでいます。

子ども達が自然豊かな故郷が好きで大切にしていこうという思いが育まれる事を願って活動を進めています。



やまがた緑環境税PR活動の取組み

県では、県民の皆様へ「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。

● 森林所有者を対象とした 説明会の開催

県内各地の森林組合等では、毎年、森林所有者向けにやまがた緑環境税活用事業の説明会を開催しています。令和2年度は、コロナ禍のため所有者個々を訪問して説明しました。

● やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ「もりしあ」の発行 情報誌

【年2回、各20,000部】

やまがた緑環境税の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、県内各地の公共施設や金融機関、ショッピングセンターなどに配布しました。



● PRパネルの巡回展示【20箇所】

県内各地の公共施設や大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木工クラフトなどの体験を行うなど、家族連れにも周知を図りました。



● 新聞・フリーペーパー・ラジオ・ プロスポーツ等を活用した普及啓発

【新聞広告：年1回 ラジオCMなど】

やまがた緑環境税の認知度50%（R2：33.5%）を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、プロスポーツプログラム等を活用した普及啓発を行いました。



● 「やまがた森の感謝祭」等のイベント開催

【令和2年度感謝祭は1年延期となりました】

延期となった感謝祭は、**令和3年6月5日（土）**に山形県遊学の森（金山町）で開催を予定しています。

★ 今後もより分かりやすく、より身近に感じてもらえるような
PR活動に取り組んでいきます ★